

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																															
専修学校 沖縄ペットワールド専門学校		平成16年3月22日	成底 敏	〒900-0034 沖縄県那覇市東町19-20 (電話) 098-861-1586																															
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人KBC学園		平成6年3月14日	大城 圭永	〒900-0025 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護・管理学科(2年制) (トータルペットケア専攻)	平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	動物業界に関わる職業人として、動物や自然に関する専門的な知識・技術・能力を身に付け、その知識に基づく実習・演習を通して実務に関する実践的な技術・技能を習得した人材を組織的に教育・育成することを目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格・検定愛玩動物飼養管理士、JKCトリマー認定試験C級 中退率:16.7%																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,712 単位時間 単位	275 単位時間 単位	331 単位時間 単位	1,106 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																																
80人の内数	7人	0人	0%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>7</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>6</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>6</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>6</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>86.0</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) メイクマン美浜店、ペットボックス那覇店、Coo & RIKU</p>							■卒業者数(C)	7	人	■就職希望者数(D)	6	人	■就職者数(E)	6	人	■地元就職者数(F)	6	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	86.0	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	7	人																																	
■就職希望者数(D)	6	人																																	
■就職者数(E)	6	人																																	
■地元就職者数(F)	6	人																																	
■就職率(E/D)	100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	86.0	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL			0																															
当該学科のホームページURL	http://www.pet.ac.jp/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,712 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>547 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,702 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>547 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>42 単位時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,712 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	547 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	1,702 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	547 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	42 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,712 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	547 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																		
うち必修授業時数	1,702 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	547 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	42 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>2人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>0人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	人	計		2人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	0人								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	人																																	
計		2人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	0人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就職先である動物病院・トリミングサロン・ドッグトレーナー・ネイチャー関連施設と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
- ②動物看護・管理学科における学修の中心となる動物の世話と管理、動物看護・手術実習、しつけトレーニング、グルーミング理論・実習、海洋実習、環境調査・実習等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の課程を明記

- ①学校の専門分野に関する業界動向、国および地域の産業振興の方向性、必要となる実務に関する知識・技術等から生じる専門学校の内容について意見交換等を行う事により、教育の質の向上をはかることを目的とする。
- ②教育課程編成委員会は、教育課程への意見を求める校長からの諮問に対し、教務責任者が委員長を務め、各学科責任者が参加することにより、企業等から提出された問題点の指摘や提言を次年度以降の教育課程(授業科目・授業方法・内容等)に反映させるべく討議を行う。
- ③校長は教育課程編成委員会設置規定に基づき、委員長からの意見(答申)を得て、次年度以降の教育課程の編成を行い、具体的な意見の反映の結果については、直近の委員会に報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
喜納 保	ペットメディカルセンター・エイル 取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
翁長 朝	財団法人沖縄こどもの国 動物園課 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
榎本 峰	ミライノ合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
周本 剛大	琉球動物医療センター 院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
大城 大樹	メイクマン浦添店 店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
吉田 剛	沖縄ペットワールド専門学校 副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
儀間 秀人	沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
名護 聡美	沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
山城 正仁	沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催数:2回(毎年8月・12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月22日 16:30～17:30

第2回 令和5年12月19日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会より、飼い主への対応力強化や販売促進強化の内容について提言を頂いたことから、下記について強化を図る。

- ・コミュニケーション能力向上の強化
- ・販売促進能力向上の強化
- ・金融教育への取組み

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①企業との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ②企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等に実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記方針を実現するために、教育課程における科目について、動物業界について専門的知見を有する企業と連携し、実務に関する実践的な技術・知識を習得するための企業実習を行う。実際に企業にて業務の体験・実習を実施し、主に実践力(実務能力)を軸とした評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習ⅠⅡ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	株式会社メイクマン ペッツワン トリミングショップ ハピネス ペットショップ・ビビアン オーシャンペット本店 総数9社
グリーミング実習Ⅱ	犬種ごとの安全管理、犬の扱いを学び、カット技術を修得する	ビビアン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するため、関連する機関と連携して実務に関する知識、技術、技能の修得及び教員個々の教育活動上の役割を考慮し、指導スキルの向上を目的とした組織的かつ計画的な研修を行う。

- ①教育課程専門委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修
- ②教職員の能力向上および資質等の向上を図ることを目的とした研修等への派遣
- ③専門的かつ実践的な知識・技能・指導スキルを身につけるための研修等への派遣
- ④学校法人KBC学園教職員研修規定第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国動物専門学校協会 トリマー教職員実技研修会」(連携企業等: 全国動物専門学校協会)
 期間: 2023年8月2日(水) 対象: トータルペットケア専攻職員
 内容: トリミング選手権大会競技要綱説明・各種検定の審査基準等に関する研修(トリミング検定員実技試験含む)
 教育内容との関係性: トリミング実技試験科目・審査基準に関する内容
 企業等との連携内容: 専門家からの最新技術の習得

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「キャリアサポート研修」(連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団)
 期間: 2023年8月16日(水)～8月18日(金) 対象: トータルペットケア専攻職員
 内容: 学生キャリアガイダンスにおける基本
 教育内容との関係性: 在校生のキャリアガイダンスの際に必要な基本的な態度・姿勢を学び学生をサポートする
 企業等との連携内容: 教員と学生間の信頼関係を構築するコミュニケーション技法を習得

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国動物専門学校協会 トリマー教職員実技研修会」(連携企業等: 全国動物専門学校協会)
 期間: 2024年8月 対象: トータルペットケア専攻職員
 内容: トリミング選手権大会競技要綱説明・各種検定の審査基準等に関する研修(トリミング検定員実技試験含む)
 教育内容との関係性: トリミング実技試験科目・審査基準に関する内容
 企業等との連携内容: 専門家からの最新技術の習得

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「キャリアサポート研修」(連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団)
 期間: 2024年8月14日(水)～8月16日(金) 対象: トータルペットケア専攻職員
 内容: 学生キャリアガイダンスにおける基本
 教育内容との関係性: 在校生のキャリアガイダンスの際に必要な基本的な態度・姿勢を学び学生をサポートする
 企業等との連携内容: 教員と学生間の信頼関係を構築するコミュニケーション技法を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦略となる人財を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①教育理念・育成する人財像が、「学生の手引き」に記載されているか ②教育理念・育成する人財像が、教職員手帳等に記載されているか ③教育理念・育成する人財像が、HP、パンフレット・募集要項等に記載されているか ④学科の修業期間における教育事業計画が文書化され、提示されているか
(2) 学校運営	①年度予算、中期計画が策定されているか ②予算は計画に従って妥当に執行されているか、定期的に確認しているか ③理事会・評議委員会が定期的開催されているか ④運営会議が定期的開催されているか ⑤人事考課制度は文書化されているか ⑥賃金制度は文書化されているか ⑦採用制度は文書化されているか ⑧勤務管理が適正にされているか

(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ①教育理念の達成に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか ②カリキュラム作成の為のカリキュラム作成委員会があるか ③カリキュラムを作成するに当たり、教育課程編成委員会を開催し業界関係者等の外部関係者の意見を取り入れているか ④シラバス或いは講義要項等が作成されているか ⑤シラバス或いは講義要項等が事前に学生に配布されているか ⑥学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか ⑦授業改善の為の組織的取り組みが行われているか ⑧企業・施設等での職場実習があるか ⑨キャリア教育等を行っているか ⑩ビジネス教育を行っているか ⑪コミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを行っているか ⑫教職員の育成計画等が策定されているか ⑬専門性や指導力等の向上の為の外部研修・研究へ派遣しているか ⑭教員の資質の向上の為の、自己啓発への支援をしているか ⑮非常勤講師との定期的な情報共有の為のミーティング等を開催しているか。および非常勤講師からの報告書が提出されているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ①就職に関する目標を設定したか ②就職に関する目標は教職員に共有されているか ③就職活動に関する記録がなされているか ④学生の就職結果に関して検証・報告がされたか ⑤資格・検定・コンペに関する目標を設定したか ⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか ⑧進級率の目標を設定しているか ⑨進級率に関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑩退学結果に関して検証・報告がされたか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ①担任による面談が定期的に行われているか ②担任は、適切に配置されているか ③学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口が整備されているか ④学生指導に関する教職員の相談に応じる体制があり、周知されているか ⑤学生の面談・相談記録があるか ⑥定期的に健康診断を行っているか ⑦奨学金制度等の経済的支援があるか ⑧保護者との計画的な相談会・面談を行っているか ⑨卒業生の会(同窓会等)はあるか ⑩卒業生への職業紹介をしているか ⑪卒業生の就業状況把握の為の取り組みを行っているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ①組織図はあるか ②学校の年間スケジュールはあるか ③図書室・図書コーナー等があるか ④キャリアサポートを行う就職支援室・支援コーナー等があるか ⑤喫煙に関する規定が文書化・提示されているか ⑥環境エコ活動に関する規定が文書化・掲示されているか ⑦学内の整理・整頓・清掃に関する規定が文書化されているか。また定期的に管理、チェックがされているか ⑧学内外実習時の安全対策に関して文書化されているか ⑨学校生活において保険に加入しているか ⑩教育施設・備品等が定期的に管理・点検されているか ⑪防災・防犯対策に対して文書化・組織化されているか ⑫防災・防犯訓練・研修が定期的実施されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ①学校案内等に目指す資格・検定・コンペが明示されているか ②学校案内等に学費・教材費・選抜方法等が明示されているか ③入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか ④学校説明会等による情報提供を行っているか ⑤入学者に対し学習、学校生活の為のオリエンテーションは行われているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ①会計監査の結果報告が文書等にて明確化されているか ②私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか ③備品及び車両に関する管理規定が文書化・管理されているか ④物品購入等における複数業者からの確認がされているか

(9) 法令等の遵守	①個人情報保護規定が文書化されているか ②セクシャルハラスメントに関する規定が文書化されているか ③施設設備の保守・管理が定期的に行われているか ④防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか ⑤教職員の健康診断がなされているか ⑥自己点検・評価の為の運用ルールが文書化されているか ⑦自己点検・評価の組織があるか ⑧自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか ⑨自己点検・評価の結果を全教職員で共有する機会を設けたか。結果に基づき計画的に改善を実施しているか ⑩自己点検・評価報告書があるか。公表されているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を実施しているか ②教育資源を地域社会に提供しているか ③社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を奨励・支援しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和3年度結果に基づく学校関係者評価の結果、教育の内容、特に授業指導力向上の為、シラバス蓄積や管理を徹底する必要がある事について提言を受けた。全科目においてシラバスの蓄積や管理を強化し、ホームページにて掲載する事で、教育内容の充実を図ることとする。学校関係者評価結果に基づく改善改革を今後も推進する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
喜納 保	ペットメディカルセンター・エイル 取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等役員
翁長 朝	財団法人沖縄こどもの国 動物園課 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	団体職員
榎本 峰	ミライノ合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等役員
周本 剛大	琉球動物医療センター 院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等役員
大城 大樹	メイクマン浦添店 店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等役員
山城 徹美		令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <http://www.pet.ac.jp/>

公表時期: 令和6年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資する事。その為に、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。
- ②又、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。
- ③情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②学校の特色 ③校長挨拶 ④所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①募集学科・定員 ②入学方法 ③カリキュラム ④目標とする資格・検定 ⑤資格・検定実績 ⑥就職状況
(3) 教職員	①教職員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①就職サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事
(6) 学生の生活支援	①各種サポート ②学生の声
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②学費免除制度、奨学金
(8) 学校の財務	①収支計算書、貸借対照表、監査報告
(9) 学校評価	①自己点検・評価 ②学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <http://www.pet.ac.jp/>

公表時期: 令和6年7月1日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護・管理学科(2年制) トータルペットケア専攻) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物の世話管理実習Ⅰ	学校飼育動物の世話を通して健康管理法を学ぶ	1通	37			○	○		○			
○			グルーミング理論Ⅰ	犬種ごとのカット方法と犬種標準を学ぶ	1通	30	○			○		○			
○			グルーミング実習Ⅰ	犬種ごとの扱いを学び、カット技術をマスターする	1通	377			○	○		○			
○			動物行動学	主に犬の社会化、習性、トレーニング基礎を理解し、対象動物への観察方法を学ぶ	1通	15	○			○		○			
○			動物看護実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	1通	30			○	○		○			
○			動物臨床検査学	検査の目的を解剖学的・生理学的知識とともに身につける	1後	15	○			○		○			
○			動物形態機能学	小動物の体の構造と機能を理解する。	1通	30	○					○			
○			動物衛生管理学	人と動物、動物関連施設における感染症の予防と衛生管理方法について学ぶ	1前	15	○			○		○			
○			動物臨床栄養学	犬猫に必要な栄養素・ライフステージ、ペットフードと療法食や給餌法を学ぶ	1後	15	○			○		○			
○			ペット概論	ペット飼養実態・ペット関連産業の概要・市場規模の知識を得て適正飼養を考える	1通	15	○			○		○			
○			愛玩動物総論	愛玩検定取得に向けての試験対策	1通	40		○		○		○			
○			ビジネスマナーⅠ	社会人基礎力(挨拶、返事、礼儀、電話応対、敬語)を身につける	1通	30		○		○		○			
○			志学Ⅰ・ヒューマンスキル	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	1通	24	○			○		○			
○			就職実務Ⅰ	社会人として必要な知識、スキルを身に付ける	1後	10	○			○		○			
○			企業実習Ⅰ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	1通	24			○		○	○		○	
○			特別授業Ⅰ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	1通	145		○		○	○	○			
○			動物の世話管理実習Ⅱ	学校飼育動物の世話を通して健康管理法を学ぶ	2前	7			○	○		○			
○			グルーミング理論Ⅱ	犬種ごとの標準カット方法を学ぶ	2通	30				○	○	○			
○			グルーミング実習Ⅱ	犬種ごとの安全管理、犬の扱いを学び、カット技術を修得する	2通	445				○	○	○		○	
○			サロンコミュニケーション	グルーミングサロン内での接遇やクレーム対応等をロールプレイングで学ぶ	2後	4			○	○		○			
○			動物の病気	トリマーが知っておくべき動物の病気について学ぶ	2後	15	○			○		○			
○			繁殖学	主に犬の繁殖生理を理解し性周期・疾病予防について理解する	2通	30	○			○			○	○	
○			犬学	犬種ごとの特徴を学ぶ	2通	30	○			○			○	○	
○			パソコン実習Ⅱ	ワープロ、エクセル3級以上の取得を目指す	2前	60			○	○			○		
○			ビジネスマナーⅡ	サービス検定3級取得に向けた演習やショップでの接客対応を学び実践演習を行う	2前	31	○				○		○		

(文化・教養専門課程 動物看護・管理学科(2年制) トータルペットケア専攻) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			志学Ⅱ	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	2前	8			○	○		○			
○			就職実務Ⅱ	履歴書、面接、マナーについて学習する。基礎学力向上を目指し、就職活動における筆記試験対策も行う	2前	15		○		○		○			
○			企業実習Ⅱ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	2通	18			○		○				○
○			特別授業Ⅱ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	2通	78		○		○	○	○			
○			動物看護実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	2通	35			○	○		○			
○			動物臨床検査学	検体検査・生体検査に関する意義・基本的手技を身に着ける	2通	31			○	○		○			
○			院内コミュニケーション	事前問診ができ、院内における他スタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する	2前	8		○		○		○			
○			外科学実習	手術準備や手術中・術後管理、麻酔準備や記録、救急救命などの知識と実践力を習得する	2後	15		○		○		○			
合計						33科目	1,712単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ①基準検定の取得 ②出席状況 総授業時間の出席率90%以上 ③成績評価すべてC評価以上 ④授業料等が全て納入されている事 履修方法： ①評価試験 原則として科目毎に前期・後期終了時に評価試験結果とする。 ②出席状況 ③その他 授業態度・確認テスト・課題提出・検定試験などによって実施 ※原則として絶対評価	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	26週